

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

## ②施設・事業所情報

名称：らいらっく山吹保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：秋元 麻衣	定員（利用人数）：40（42）名	
所在地：〒212-0024 川崎市幸区塚越1-60-160		
TEL：044-223-8388	ホームページ： <a href="https://lilacnursery.jp/">https://lilacnursery.jp/</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2017年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人リラ福祉会		
職員数	常勤職員：12名 非常勤職員：3名	
専門職員	（専門職の名称）：名	
	保育士：13名	栄養士：1名
	調理師：1名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	居室：0.1歳児室	設備：調理室
	居室：2.3歳児室	設備：調乳室
	居室：4.5歳児室	設備：沐浴室
		設備：乳幼児用トイレ
		設備：事務室兼医務室
		設備：ロッカー室兼休憩室
	設備：園庭	

## ③理念・基本方針

## &lt;理念&gt;

子どもの幸せを最優先し、健全な心身の発達が育成できるよう養護と教育の創意工夫と環境づくりの中で保育を図る

## &lt;基本方針&gt;

子どもたちのなかに、かくれている輝きを最大限に活かし、リスクを最小限に抑えるプログラムづくりの導入

## &lt;保育目標&gt;

1. 子どもの人権を十分配慮し「心と身体のバランスを保って健全なる育成と豊かな情操を図る」
2. 「からだのしくみといのちの成長発達を図る」
3. 保護者と園の「共育て」を大切に家庭への補完を図る。
4. 自己評価を通して、保育者の資質向上や職員相互の研鑽を図る。
5. 地域の子育て支援をする。

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

〈らいらっく山吹保育園の特徴的な取組〉

● 〈職員が働きやすい職場環境〉

さまざまな年代、子育て中の職員が勤める中で、それぞれに合った働き方を提案し、長く勤務できるように年代・職種・役職関係なく意見が言いやすい場を設けている。

● 〈研修制度〉

充実した研修体制を整え、園内研修をはじめ外部研修にも積極的に参加し、1年目の職員からスキルアップを目指す。

● 〈心理的安全性のある職場環境〉

年数の違いのある中でも、自分の意見を伝えられるように話し合いの場を作っている。

● 〈異年齢児保育〉

0・1歳児、2・3歳児、4・5歳児クラスが縦割り保育で日常を過ごしている為、年下の子どもたちは年上の子どものおそび、運動面などに対し憧れを抱き「こうなりたい」という気持ちが育まれ、年上の子どもたちは年下の子どもに対し可愛がる姿があり、思いやり慈しむ気持ちを持つ事が出来ている。

● 〈食育活動〉

自園調理を実施し給食を提供している。給食で使用する食材は園周辺の商店から取り寄せ、顔の見える関係。栄養士から野菜などの栄養について教えてもらったり、4、5歳児クラスが商店に出向きお買い物ごっこを行い、園庭で夏野菜を栽培、収穫したものをその日の給食に盛り込んでいる。旬の食材を取り入れて、子どもたちの興味関心を引き出している。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年05月09日（契約日） ～ 2024年10月23日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回（年度）

#### ⑥総評

【らいらっく山吹保育園の概要】

●らいらっく山吹保育園（以下、当園という。）は社会福祉法人リウ福祉会（以下、法人という。）の運営です。法人は、「子どもがのびのびと育つ環境を目指して」をスローガンとし、法人事務局のあるらいらっく保育園、らいらっく幸（さち）保育園、らいらっくみゆき保育園を、中原区、幸区に展開しています。運営方針の1つに、「褒めて伸ばすポジティブ保育」を目指し、「デンバースケール」（発達記録表）を入園から卒園まで各クラスの担任が一環して記録し一人ひとりの発達を把握しながら工夫して保育に当たる体制を推進しています。

●当園の立地は、JR南武線鹿島田駅から徒歩10分弱、幸区中央部の塚越の地区に位置し、近隣には中学校や集合住宅、戸建て住宅があり、中学生の活発な声が響き、活気が溢れ元気がみなぎる環境にあります。園舎は、設計時から保育士が関わり、保育環境に拘った構造になっています。法人の名称に沿った「枝先に葡萄のような房なりの花をつけて咲く姿のように」と、子どもたちが集う保育園でありたいと願い、良い保育を追求し、成育・発達過程を見守る保育を実践しています。

●地域との関係については、園設立時に園舎のすぐ脇に町内会の防災倉庫を設置する等、友好的な関係を構築しています。当初、地域との交流等も計画予定にありましたが、コロナ禍の時期と重なり交流が思うように進まない状況となっており、新型コロナウイルス

スも5類感染症に移行した現在、町内会を始めとする地域との交流を進める予定でいます。

●当園の方針として、定員40名の小規模園を生かし、子ども一人ひとりに向き合う保育を心がけ、個々の輝きを最大限生かすよう実行しています。職員は先回りして制限するのではなく、経験させ、実感し、ダメなことは叱り、良いことは存分に褒め、一人ひとりが伸び伸びと育まれるよう「褒めて伸ばすポジティブ保育」を実践すると共に、保護者と協力し合う「共育て」を目指しています。

◇特長や今後期待される点

#### 1. 【異年齢児保育の推進】

当園は、「異年齢児保育」を推進しています。その特徴として、一般的な3・4・5歳児別に分けた3年齢とは異なり、「0歳児、1歳児」、「2歳児、3歳児」、「4歳児、5歳児」での2年齢ごとにし3つのグループの異年齢児保育を日常的に行っています。1年齢を7名平均（0歳児は5名）とし、2年齢（約14名）で体系的に計画され、団体生活はスムーズに進めやすく、一緒に過ごすメリットは大きいと思われれます。3年齢での保育のメリット・デメリットを理解しつつ、2年齢の保育は成長等のレベル差が少ない為、1歳下の子どもが上の子どもと同じように真似て覚え、上の子どもも年上意識を持って頑張る成長の姿があります。また、0歳児、1歳児では月齢差が大きく、0歳児で月齢の大きい子どもは1歳児と一緒に遊んで成長できる等、2年齢の異年齢グループの良さが見られました。2年齢での異年齢児保育での改善を図りつつ、効率的に保育の機能を生かし推進を図っています。

#### 2. 【職員の育成】

小規模保育園の実態として、保育士は総数13名、その内、園長、主任、副主任・クラスリーダーを除くと一般保育士は半数強という体制の中で、クラスの運営を見せていただきました。0歳児、1歳児のクラスでは風船をたくさん膨らませ、風船が割れても安全なようにビニールに入れて圧縮させてクッションを作り、見た目も楽しく、子どもたちは興味を持って遊んでいました。2歳児、3歳児クラスでは、保育室にビニール紐を縦横十文字に貼った上に新聞を吊り下げ、新聞の無いところを進む迷路遊びを楽しく遊んでいました。いずれも職員の工夫とアイデアで活動プログラムが作成され、各クラスの自主性が尊重された生き生きとした保育が実施されています。「ポジティブ保育」の職員間の共通認識は根付いており、職員の一つひとつのアイデアが園の財産となっていく体制が、ひいては組織の向上につながっていくと思います。

#### 3. 【中堅職員の育成】

当園の中堅職員の育成の1つに、法人系列のらいらっく保育園（定員110名）、らいらっく幸（さち）保育園（定員90名）、らいらっくみゆき保育園（定員120名）との行事等での連携・活用が挙げられます。系列園との連携は、行事を通しての連携や園庭を共有した交流、法人合同研修を行っています。さらに拡大を図り、中・長期（3～5年）の目標（ビジョン、組織全体が目指す姿）に示すよう、組織階層における中堅職員の視野を広くし、園全体を把握できるよう職員自身の役割を果たせる体制作りのための教育体制を進め、ひいては法人の教育体制の構築につながられるよう期待されます。さらには、法人の運営方針の一つである「褒めて伸ばすポジティブ保育」の推進を十分図った上での教育体制の構築を期待しています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 らいらっく山吹保育園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取組の感想》

開園8年目にして初めて第三者評価を受審し、利用者アンケートの回収率が86%と非常に高くまた、園の運営にあたり保護者の方にご理解ご協力いただけていることを改めて感じると共に、少人数の小さな園だからこそできる事を日々職員と共に実践してきた結果が表れ、とても励みになりました。

一方でまだまだ至らない点、改善が必要な所も明確になったので、今後より一層子どもに寄り添う保育を目指すべく、努力してまいりたいと思います。

自己評価を行うに当たり、職員を年数別の四つのグループに分け評価をまとめましたが、それぞれの年数によって園・法人についての理解度が異なり、運営側としての課題も見えてきました。

職員同士も普段あまり話し合う機会の少ない内容を細かく確認し合うことができ、良い機会となりました。

とても丁寧にヒアリングを行っていただき、会話の中から気づきや学びが多くあり、自園にとっての強みを知ることができました。

《評価後取組んだこととして》

1. 第三者評価、利用者アンケート集計・分析結果の内容確認と対応策について職員と検討を行う
2. 保育の見直しを改めて行う
3. 職員に対し、法人や園についての細かい話等も分かりやすく伝えていく

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり